

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・話題の中心を捉え、メモをしながら聞くことができる児童が多い。
- ・物語文では登場人物の心情を、説明文では要旨を読み取る力が定着している児童が多い。

(2) 課題

- ・基礎的な漢字の書きの学習に課題のある児童が多い。
- ・自分の考えを明確にして、内容のまとまりを考えて段落の構成をすることに難しさを感じる児童が多い。
- ・課題に対して、自分の意見をもったり、それを相手に伝えられるように文章で表現したりすることができる児童が少ない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	平均正答率は、目標値と同程度であった。物語文や説明文を読み取る力は、目標値を上回っている。しかし、書く領域は、目標値を下回っている。		
第5学年	平均正答率は、目標値を下回った。物語文や説明文を読み取る力は、目標値と同程度であった。しかし、書く領域は、目標値を下回っている。	読むことや話す・聞くこと、言語文化については目標値である。しかしそれ以外は目標値を下回り、特に、言葉の特徴や使い方、書くことは大きく下回っている。 (第4学年時)	
第6学年	平均正答率は、目標値と同程度であった。しかし、書くことや情報の扱い方については、目標値を下回っている。	全体の正答率は、目標値を3.4ポイント上回った。しかし、書く領域は、下回っている。 (第5学年時)	全体の正答率は、目標値を0.5ポイント上回った。書く領域は目標値を下回り、文章を書くことができていない。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な漢字の読み書きや言葉の学習が定着していない。主語述語の関係について理解することに課題がある。	物語文や説明文の内容の読み取りの力は身に付いている。しかし、自分の考えを文章に書き表すことが苦手な児童が多く、書く領域に課題がある。	自分の考えとそれを支える事例を書く問題の正答率が低い。課題に対して、主体的に考え、自分の意見をもつことが苦手な児童が多いと考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な漢字の読みは定着している児童が多いが、漢字の書きが定着していない児童が多い。また、言葉の学習の定着も不十分である。 また、書く内容を明確にして、文章構成を考えて記述することに課題がある。	物語や説明文の内容を読み取ることはできている。しかし、資料から読み取った情報をまとめたり、相手を意識して自分の考えを明確にして記述したりすることに課題がある。	自分の考えを表現することに抵抗感のある児童が多く正答率が低くなっている。記述の問題となると、諦めてしまい取り組まない傾向がうかがえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・語彙を習得させるために、読書の時間を確保し、身近なことを表す語彙の量を増やす。 ・授業中の音読に続けて取り組み、一人一人が音読できているか確認する。 ・主語述語を対応させるために、一文を短く書く指導を繰り返す。また、自分の書いた文章を読み直し、推敲する習慣を付けさせる。	・自分で感じたことや考えたことを明確にし、順序だてて話せるように、事柄の中心を明確にできるようにする。 ・文章を書く力を向上させるため、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えられるようにする。 ・書いたものを交流して考えをより深めることができるようにする。	・すすんで読書を行う児童を増やし、学習の中で獲得した語彙を生かすことができるようにする。 ・様々なジャンルの本を手にとるよう、声をかけていく。本の紹介や読み聞かせを行って読書に興味をもてるようにする。 ・読むことに苦手意識のある児童に対しては、挿絵を手掛かりにしながら文を読み、内容を楽しめるように支援する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・主語と述語の関係を確認し、主語と述語が照応した文章を書くことができるようにする。 ・授業感想など、短文を書く機会を多く設定し、書く経験を積む。 ・辞書を使って意味調べを行い語彙を増やしたり、意味を正しく理解して使えたりできるようにする。	・自分の考えを明確にし、相手や目的を意識して、伝えたいことを文章に書き表せられるようにする。また、内容のまとまりで段落を考えて文章に書くことができるようにする。 ・中心となる語や文を見つけたら傍線を引かせるようにして、話題の中心を考え、要約することができるようにする。	・相手に伝わるように文章で自分の考えを表現し、書いた文章を読み合い、認め合う学習を積み重ねることで、達成感を味わうことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 論の展開や筆者の主張を読み取る指導を繰り返し、文章全体の構成や要旨をつかめるようにする。 ・ 日頃から、書く経験を積めるように、日記や読書感想文、視写などを行うようにする。	・ 相手意識、目的意識をもち、伝えたいこととその理由が明確になるように文章の構成を意識して、書くことを指導する。 ・ 書いた文章を友達と交流する活動を増やし、互いのよさを認め合ったり、上手な書き方を取り入れたりすることができるようにする。	・ 教材開発や授業での発問の工夫を行い、分かる楽しさを味わうことができる工夫を行っていく。 ・ 自分の力で書き上げられたという経験を多く積ませ、書くことへの抵抗感のなくなる活動を増やす。

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実際に見学に行くことで、児童が主体的に取り組む態度に向上が見られた。
- ・ゲストティーチャーを呼び、その方からお話を聞くことで意欲も高まり、知識の定着につながった。

(2) 課題

- ・都や国、世界といった地理的内容の理解が不十分であり、他の単元のつまずきにつながっている。
- ・思考・判断・表現の項目には向上が見られるが、既習内容を言葉や文章で表現することに苦手意識が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全体としては目標値を2.2ポイント上回った。基礎は0.1ポイント下回った。活用は7.3ポイント上回った。		
第5学年	全体としては2.3ポイント下回った。基礎は4.1ポイント下回った。活用は2.2ポイント上回った。	全体としては目標値を3.3ポイント下回った。基礎は4.4ポイント下回った。活用は0.2ポイント下回った。 (第4学年時)	
第6学年	全体としては1.8ポイント上回った。基礎は1.4ポイント下回った。活用は8.7ポイント上回った。	全体としては目標値を1.8ポイント下回った。基礎は5.1ポイント下回った。活用は6.2ポイント上回った。 (第5学年時)	全体としては目標値を0.1ポイント下回った。基礎は1ポイント下回り、活用は2.5ポイント上回った。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「地図記号」「工場の仕事」「くらしの移り変わり」の単元で目標値を下回っていた。日常生活から離れた内容のものが定着していないと考えられる。	「市の様子の移り変わり」での回答が目標値より下回った。資料から情報を読み取ることはできるが、それを活用して考え、言葉で表現する力が十分でない。	自分に身近な内容に対しては意欲的に取り組む。体験から考えを広げていくことができる。複数の資料を読み取ったり比べたりすることをハードルが高いと感じる児童がいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年生は「ごみのしよりと利用」で正答率が高かった。ごみ処理施設へ見学に行ったことが効果的であったと考えられる。6年生は「世界の中の国土」「日本の	5年生は、資料をもとに判断したり表現したりする問題で目標値を下回った。資料を読み取ることと課題があると考えられる。6年生の思考力・判断力・表現力を	5年生は地理の名称を覚えることには苦戦する様子が見られた。米作りについては興味をもって取り組む姿が見られた。備蓄米が話題になったことで身近に感

農業」で目標値を下回った。	問う問題では、どの問題でも目標値を上回った。	じられたと考えられる。6年生は歴史に対して意欲的な児童が多いが、公民的な内容では自分事として関連付けて考えようとする様子が見られなかった。
---------------	------------------------	---

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・副読本や地図帳、絵地図などの資料を活用する場をさまざまな場面で設定する。	- 単元のまとめ方を新聞やパンフレット、すごろくなど、多様な方法で行うようにする。また、自分の考えの根拠を明らかにさせる。 - 調べたことを以前学習したこととつなげられるよう印を付け、振り返る場を設定する。	- できるだけ校外学習や見学などの体験的活動が実施できるようにする。 - タブレットに写真を送り、その写真に書き込みを入れる活動などで学習への意欲を高めていく。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教科書や地図帳、資料集をさまざまな場面で活用できるようにする。	調べたことを以前学習したこととつなげられるよう印を付け、振り返る場を設定する。	- 政治の学習では、模擬選挙を行うなどの体験的な学習を行う。 - タブレットを活用し、他の人の意見がわかる機能を使い、話し合い活動を行うことで学びの意欲を高めていく。

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・習熟度に応じたクラス編成と、児童の実態に合わせた進度・内容の工夫により、すべての領域において基礎的な学力が概ね定着した。
- ・「数と計算」領域では、繰り返し学習の機会を十分に確保したことで、どの学年も高い定着を示した。

(2) 課題

- ・既習事項をもとに自分の考えを図や式で表現したり、立式の理由を筋道立てて説明したりする力が全体として弱く、課題の見通しをもって自ら解決の筋道を立てる力の育成が求められる。今年度の学習効果測定（国語）の結果においても、全学年で読解力の課題が見られたことから、算数においても問題文の意味を的確に捉える力が不足していることがうかがえる。授業では「何を問われているのか」「何を求められているのか」を児童に聞きながら、課題把握力や情報の取捨選択の力を日常的に鍛えていく必要がある。
- ・数学的な活動に対して苦手意識を抱く児童が依然として多く、高学年になると「どうせできない」といった消極的な姿勢が目立つ傾向にある。解決への意欲を引き出すためには、児童にとって身近な事象と関連付けて課題を提示することや、見通しや量感を意識させながら考えを深めていくような導入の工夫が求められる。児童一人一人のつまずきに丁寧に関わり添いながら、達成感を積み重ねていく指導が重要である。
- ・図形領域に関しては、全体として正答率が低い状況が続いており、その要因として、図形の構成要素に注目し、性質をもとに考える視点が不十分であることが挙げられる。作図以前の段階で、辺や角などに着目して特徴を捉える力を養うことが重要であり、そのためには、コンパスやものさしなどの用具を目的に応じて正確に使う力を計画的に身に付けさせる必要がある。また、「直線で囲まれた形」に着目させるような視点を低学年から意識づけ、図形への見方・考え方を積み上げていく指導を進めていくことが求められる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	全体としては全国正答率を6.3ポイント下回る。平均を上回る領域が多いが「3桁＋4桁（繰り上がり3回）の計算」と「時刻と時間」が全国平均よりも大きく下回っている。		
第5学年	全体としては全国平均を4.3ポイント下回る。平均を下回る領域が多い。数の仕組みの理解や九九を使った計算、作図などが苦手である。	全体の正答率は、目標値を2.2ポイント上回った。図形領域における正答率が2ポイント低い結果となった。 (第4学年時)	
第6学年	全体としては0.2ポイント下回った。分数の計算と文章の読解力や文章力が必要な記述式の問題が苦手である。	基礎・活用においては、全ての項目で、目標値を超えた。半面、領域別でみると、データの活用領域、三観点で見ると、知識・技能以外は目	全体の正答率は、目標値を4.8ポイント上回った。数と計算領域における正答率の伸びが鈍い傾向にある。 (第4学年時)

		標値を下回る結果となった。 (第5学年時)	
--	--	--------------------------	--

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算能力は概ね定着しているが、繰り上がりの多い計算や時刻の逆算に課題があり、手順の理解と活用力の定着が必要である。	長さや重さに関する記述問題の正答率が低く、問題の内容を読み取る力や、自分の考えを言語で表現する力の育成が課題である。	短答式では、全国平均を上回る成果が見られるが、記述問題への苦手意識があるため、日々の授業で思考を言語化する機会の充実が必要である。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と計算領域における、分数・小数などの数のしくみの理解度が低く、特にわり算に関する正答率が低い。また、5年生は平面図形の仕組みの理解が目標値より低く、ひし形の作図においては7.2ポイント低い。	6年のデータの活用領域での正答率が低い。提示されたデータから情報を読み取り、分析しながら考えを説明する力が弱かったり、聞かれていることに正確に答えられなかったりする傾向にある。	苦手意識を抱え、問題に取り組めない児童がいる。特にわり算ではかけ算やひき算を用いての計算やデータの活用で問題文を見て解くことに対して後ろ向きになる、読み進めても理解できずに解き進められない傾向にある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・加法・減法の計算に関する知識や技能は概ね身に付いているが、文章問題になると正答率が低下する傾向が見られる。また、演算の選択に課題を抱える児童も多い。そこで、場面を半具体物や図に表しながら、加法・減法の意味理解を深め、状況に応じて適切に演算を選べる力を育てる。 ・既習事項を、日常生活の中や他教科の学習において意図的に活用できるようにし、知識・技能を実生活と結び付けた形で定着させていく。 ・定規の正しい使い方を低学年から丁寧に指導し、高学年における図形の作図力の向上につなげていく。	・計算の仕方や方法について、児童が自分の考えを言葉で説明したり、他の児童の説明を考えながら聴いたりする活動を通して、「思考の言語化」や「考えた順序を説明する力」を育て、思考力・判断力・表現力を高めていく。 ・自分の考えを振り返ったり整理したりする場면을積極的に設けることで、筋道を立てて考える力を育成し、表現の質の向上につなげていく。	・様々な教具を活用したり、児童にとって身近な問題場面を取り上げたりすることで、興味や関心を引き出し、自ら学ぼうとする意欲につなげていく。 ・学習の振り返りを通して自分の考えを見つめ直し、それを教師が適切に評価・価値付けすることで、考えることの楽しさや、学びの中で大切な考えに気付けるようにしていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な計算能力は定着しているが、繰り上がり が複数ある計算や時刻の 逆算に課題がある、手順の 理解と活用力の向上が求 められる。	長さや重さを扱う記述問題の 正答率が低く、条件の読み取りや 根拠をもって説明する力の育成 が、今後の課題がある。	短答式では高い成果が見られ るが、記述への苦手意識を克服す るために、日々の授業で言語化の 練習を継続的に行う必要がある。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 既習事項が確実に定着 できるよう、反復して学 習をする。特にわり算や かけ算を用いた計算に 関しては、経年の結果を 見ても低い傾向にある ため、関連する単元の前 後には復習の時間を確 保する。 - 多くの計算の基礎とな る数の仕組み(10の構 成)やかけ算九九などを 全学年で復習する時間 を確保する。 - 既習の図形を様々な観 点から見直し、図形の構 成要素や図形の特徴を 確実にとらえさせる指 導を行う。作図する場面 を意図的に増やし、定規 の使い方や直線・頂点な どのミスを減らし、苦手 意識を軽減する。 - 既習事項を、日常生活の 場面や他教科での学習 で、意図的に用いてい く。	- どの既習事項を用いれ ばよいかを自ら判断し、 考えることができるよ うにする。 - データを読み取るだけ でなく、読み取ったこと を分析して傾向をとら えたり、データから新 たな課題を見つけたり することに重点をおき、 指導する。 - 自分の考えを説明したり、 友達の考えを自分の考 えと比べながら聞いたり するなど、目的に応じ て少人数での話し合い を効果的に取り入れる。 - 児童の発言に対して問 い返しをすることで、 自分の考えを振り返り たり整理したりして、 理解を深めるように する。	- コースごとの実態に合 わせた課題を設定し、 一人でじっくりと考 える時間を確保する。 - 教師が児童と既習事項 を確認したり、用具の 使い方を確認したり する時にあえて誤った 方法をし、児童に訂正 させることで間違い やすい点を意識づけ、 習慣化させる。 - 学習の振り返りをし、 それを教師が評価し 励ますことで、次時 への意欲を喚起し深 める楽しさを味わう ことができるように する。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・実験活動に取り組むことを中心に授業を展開することで、児童の理科学習への興味や関心が高まった。

(2) 課題

- ・植物との関わりが不足していることから、自然事象への関心及び知識理解が乏しい。
- ・日常生活での経験と学習内容を結び付けて考えられず、知識の定着が十分でない。
- ・他の教科と比較した際に、理科という教科に対しての興味や関心の薄さ、苦手意識が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	平均正答率は全国平均を下回っているものの、前年度の校内平均を上回る結果となった。単元により学習の定着に差が見られる。		
第5学年	平均正答率は、区・全国ともに大きく下回った。基礎的な知識の定着が不十分である。	平均正答率は、区・全国ともに下回った。基礎的な知識の定着が不十分な様子が見られる。(第4学年時)	
第6学年	平均正答率は全国を下回ったが、区の平均正答率は上回る結果となった。知識・技能の面において定着が不十分な単元が見られる。	平均正答率は、区・全国ともにおおむね上回っている。知識・技能については理解が深いことが分かる。しかし、思考・判断・表現については、まだ向上の余地が見られる。(第5学年時)	平均正答率は、区・全国とも上回った。しかし、磁石・電気の問題のうち、目標値より10ポイント以上下回ったものがある。(第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値から下回っている問題が数多く見られる。しかし、目標値とは大きくかけ離れてはおらず、前年度に比べると、基礎に関しては4ポイント上昇している。 ・物質エネルギーの平均正答率が目標値よりも10ポイント低く、キットを使用した実験による個別の学習体験が不十分なことが考えられる。	・目標値から正答率は6ポイント下回っている。 ・3観点で比較すると、この観点の正答率が低くなっている。 ・実験結果や状況から類推し、何が分かるのかを問う問題に苦手意識が見られる。 ・昆虫をどのような観点で分類するかなど、基礎・基本となる知識が身につけていないと考えられる。しっかり身に付けさせるべき知識あつてこそその思考・判断・表現であると考ええる。	・物質エネルギー領域の正答率が低く、生活体験の中から生まれる疑問が、理科的事象へと関連付けて考えることに苦手意識がある。 ・3年生は生命・地球が学習の年度当初に入っているが、1学期終わりに物質・エネルギーの風とゴムの働きがあり、内容の性質が異なりすぎて児童が戸惑ってしまうことが考えられる。 ・4年生から物質・エネルギー領域での実験が増えるため、自分事の問題解決につながりやすい。しかし、日常生活との結びつきについては課題が残る。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・5年生は目標値を大きく下回った。単元別に分析しても、すべての単元で、正答率が低い。 ・6年生は、目標値を下回っている単元が、2つある。単元別にみると、天気の変化や物のとけ方の正答率が低い。授業への取り組みから推測すると、実験のある分野とそうでない分野に対する理解の深さに違いが見られる。	・5年生は、目標値から8.1ポイント下回っている。問題解決学習における、根拠のある予想や仮説を発想する力を身に付けさせる必要がある。 ・6年生は目標値より1.2ポイント下回っている。単元別に分析すると「天気の変化」、「物のとけ方」の正答率が低い。理科のものの見方・考え方、「条件制御」を用いた実験結果から考察をすることへ継続的に取り組む必要がある。	・5年生は実験や観察には意欲的に取り組むことができるものの、結果から考察する力や、基礎的な知識の定着には至っていないため、実験と学習の結びつきを意識して指導する必要がある。 ・6年生は実験や観察にはとても意欲的に取り組んでいる。実生活と結びつけて考えられるように指導することが必要である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・昆虫や太陽、植物などの観察の単元においては計画的に実施することを意識し、生物や地学単元の理解を深めていく。 ・事象を実際に体験する活動を増やし、実体験から物事を理解できるようにする。	・実験の際に、事象についての予想や仮説を発想して取り組むとともに、結果、考察を通し結論を導き出せるよう指導する。また、結果と考察の違いについても指導を行う。 ・3年生は差異点や共通点を基に問題を見出すこと、4年生は既習内容や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想することに重点をおいて指導していく。	・本校在籍の理科支援員と密に連絡を取り、協力をあおぎながら、児童が様々な事象に関心をもち、意欲的に学習に取り組むために、実験や観察活動の充実を図る。 ・観察・実験が難しい単元では、ICT機器を活用しながら、映像や示範実験を通して理解を深めていく。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・実験や観察を通して、知識・技能の理解を深める。活動が体験的に終わるのではなく、児童の知識となるように、問題解決の過程を意識した学習を行う。 ・理科の実験器具の使い方について、指導の中で適切な使い方が定着できるようにする。	・実験や観察の際、事象について予想や仮説を発想し、実験に取り組むようにする。 ・実験結果から考察をする活動の際、十分な時間を確保する。問題解決の過程で用いる、5年生の「条件制御」や6年生の「多面的な考え」など「考え方」を整理し、結果を基に考察する時間を十分にとる。	・既習の内容や生活体験を手掛かりに、実験や観察を取り入れることで、児童が主体的に問題解決に取り組む意欲をもつことができるようにする。 ・児童の実態から、実験や観察が難しい単元を苦手とする傾向が見られるため、タブレット端末を使い、動画や画像を取り入れた学習指導を行う。

令和7年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・入学後すぐに2年生との交流の機会を複数回設けたことで、互いに親しみをもって交流することができた。
- ・町探検は、「町のひみつを見つける」というテーマを設定したことで、お店だけにとどまらず、公園や町の人など、広い視点で地域をとらえることができた。また、2回に分けて出かけることで、地域の情報を多く得ることができた。

(2) 課題

- ・児童が様々な活動を通して、自分なりの「気づき」を表現できるような声掛けを増やす。
- ・近くに多摩川という自然を感じられる所があるので、積極的に活用していく。また、地域の方にも早めに声を掛けて、自然を生かした活動と一緒にする機会を作る。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学校探検や花を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・学校内や多摩川河川敷に出かけて遊ぶ場を設定し、生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。	・校庭探検や学校探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会を多くつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・経験したことや発見したこと、分かったことなど絵や文、言葉など、自分なりの方法で表現できるように、適切な助言をする。 ・友達の考えや思いに気付けるように全体で共有する場を設定する。	・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるよう、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童がやりたいことを実現できたという満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題を設定する。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・町探検や野菜を育てる活動を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりに気付くことができるようにする。 ・身近にある物からおもちゃを考えたり、作って遊んだりする場を設定し、動くおもちゃの不思議さ、楽しさ、みんなで遊ぶ面白さに気付くことができるようにする。	・町探検を通して、身近な人々、社会及び自然と関わる機会をつくり、自分とどのような関係があるのか意識できるようにする。 ・自分たちの住む町のよさを相手や内容に合わせて、様々な発表方法（クイズや新聞、劇など）からグループで選択し、表現できるように、適切な助言をする。	・身近な人々、社会及び自然に、自分から接近できるよう、児童のやりたいことや願いをもって活動できるようにする。 ・児童のやりたいことが実現できたという満足感や達成感を味わい、自分のよさや可能性に気付けるよう、児童の実態に合わせた課題を設定する。 ・児童の気づきを互いに知るた

	・友達の考えや思いに気付けるように全体で共有する場を設定する。	めに、友達同士で対話する時間を確保する。
--	---------------------------------	----------------------

令和7年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年も音楽活動全般に意欲的に取り組んだ。
- ・日頃の学習の成果を個人やグループ、学年単位で発表することにより、音楽を創り上げる喜びや達成感、充実感を味わわせることができた。
- ・児童の実態に合った教材の設定や様々な学習形態を取り入れることで、個人の基礎的技能や鑑賞能力の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・楽器演奏における技能の習得には、個人差がある。
- ・技能が定着していても、曲想にふさわしい音楽表現へのハードルが高く、表現することに自信がもてない児童が見られる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取組やペア学習、個別指導等を取り入れ、習熟度を高めていく。 ・曲の感じや音楽の要素に気付くことができるよう、常時活動での反復練習やICT機器の効果的活用、既習事項と関連付けることで知識の習得を深められるようにする。	・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いをもつために、情景を想像したり楽曲の気分を感じ取ったりできるようにする。 ・曲や演奏の楽しさ、美しさをより味わうために、身体の動きのある活動を取り入れ、感じたことを言葉で表現できるようにする。	・楽しく音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 ・友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる喜びを味わうことができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取組や、ペアやグループ学習、個別指導等を取り入れ、習熟度を高めていく。 ・曲の特徴や音楽の要素を理解するために、既習事項との関連付けやICT機器を効果的に活用することで知識の習得を深められるようにする。	・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで、自ら表現に生かせるようにする。 ・曲や演奏のよさを見だし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気付き、その上で自分の考えや感じたことを表現できるようにする。	・すすんで音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 ・友達と協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感を味わうことができるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・歌唱、器楽、音楽づくりの各技能を身に付けるために、個人の習得状況を把握した上で、継続的な取組や、ペアやグループ学習、個別指導等を取り入れ、習熟度を高めていく。 ・曲の雰囲気や特徴を捉え、音楽の要素を理解するために、既習事項との関連付けや ICT 機器を効果的に活用することで知識の習得を深められるようにする。	・歌唱、器楽、音楽づくりの各活動を通して、どのように表現するかについて思いや意図をもつことができるようにする。歌詞の内容や曲想に加え、音楽を形づくる要素を感じ取ることで、自ら表現に生かせるようにする。 ・曲や演奏のよさを見いだし味わって鑑賞するために、視点を明確にして音楽の要素や構造に気づき、その上で自分の考えや感じたことを表現できるようにする。	・主体的に音楽活動に取り組むために、発達段階や児童の実態に合った魅力的な教材の設定や、学習の成果を発表したり互いのよさを認め合ったりする活動を取り入れる。 ・友達と協働して音楽活動をする楽しさを味わいながら様々な音楽に親しみ、創り上げる達成感や充実感を味わうことができるようにする。

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・どの学年の児童も、意欲的に活動する児童が多い。
- ・様々な材料や表現方法を経験し、自分なりの表現方法を模索しながら選び取っている。
- ・友達の作品のよいところを見付けたり、よさを認め合ったりする雰囲気ができてきた。

(2) 課題

- ・自分の作品のよさを認めたり、伝えたりすることが難しい児童もいる。
- ・用具を安全に配慮しながら、正しく扱う意識が低い児童もいる。
- ・授業の導入時などの全体指導の話がなかなか入らず、学習の趣旨と違っていることをしていても気が付かない児童もいる。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などに気付き、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・安全に配慮しながら、身近な材料や用具の扱いに十分に慣れるようにする。	・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、楽しく発想や構想をしたり、身の回りの作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。	・楽しく表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの感じが分かり、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・安全に配慮しながら、身近な材料や用具を適切に扱えるようにする。	・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、豊かに発想や構想をしたり、身近にある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。 ・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。	・すすんで表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し、友達の作品のよさを認め合える時間を設定する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などの造形的な特徴を理解し、表し方を工夫して表すことができるようにする。 ・安全に配慮しながら、身近な材料や	・造形遊びや絵や立体、工作に表す活動を通して、創造的に発想や構想をしたり、親しみのある作品から自分の見方や感じ方を広げたりできるようにする。	・主体的に表現したり鑑賞したりする活動を通して、つくりだす喜びを味わえるようにする。 ・互いの作品を鑑賞し、友達の作品や美術作品のよさや美しさ

用具を活用できるようにする。 ・新素材など新しいものなども活用し、加工のための技術や知識を習得することができるようにする。	・何を表したらよいか困っている児童に、個別に適切な助言をする。 ・新素材など新しいものなども活用し、表現の幅を広げることができるようにする。	を認め合える時間を設定する。 ・課題に対する自分の考えを明確にし、表現していこうとする気持ちを高めることができるようにする。
--	---	---

令和7年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体育科の授業に楽しんで取り組む児童が増えた。
- ・体育科の授業で ICT の活用が浸透しつつある。

(2) 課題

- ・日常で行う遊びに偏りがあり、経験が乏しい運動が多い。学年相応の体力や運動能力がついていない児童が多い。休み時間や体育科の学習で様々な動きを経験していく必要がある。
- ・運動が得意な児童は意欲的に取り組み、苦手意識がある児童は積極的に取り組めず、運動能力の差が大きくなっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年【ボールゲーム領域】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽しみながら基本的なボール操作と投げる動きを高める。 ・「ひらいて パタン とんでいけ！」など児童が理解しやすいポイントを提示する。	・教具を児童に選択させる機会を設けて思考を促す。 ・遊び方の工夫を児童から引き出す機会を設ける。 ・考えを伝えることの良さを価値付け全体へ広げる。	・多様なゲームを経験し、投げる楽しさを味わわせる。 ・チームで協力することの楽しさを味わわせる。 ・安全に気を付けて運動させる。

(2) 中学年【ゲーム領域】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基本的なボール操作を確認する。 →投げたい方向にボールを持たない手に向ける。 →横向きに立ち、肘を上げる。 →足を踏み出す時、しっかりと体重を移動させて投げる。	・ICT を用いて撮影した動画で自己の動きを確認する。 ・学習カードを用いて自分の課題と向き合う思考力を養う。 ・児童と合意形成を図りながらルール工夫をする。	・安全に気を付けて運動する。 ・協働的な学びをしている児童を価値付け全体へ広げる。

(3) 高学年【ボール運動領域】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・横向きの姿勢から足を踏み出して、腕を強く振って遠くへ投げることができるようにする。 ⇒スローゴルフ 「ゴルフのように、コースに沿って赤玉を遠投し、少ない投球回数でかごに入れる」	・児童がタブレットで動画を撮り、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、課題を確認することができるようにする。	・場の安全に気を付けて運動させる。 ・仲間の考えや取り組みを認めようとしている。 ・日常生活でも児童が投げる運動を楽しむ機会を設定する。 ⇒休み時間に投げるデーを設ける。

令和7年度 家庭科授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・学んだことを家庭生活に生かす課題に取り組む際には、保護者へ協力依頼をすると、家庭での仕事に目を向け実践することができるようになってきた。
- ・ソーイングの実技指導の前には、基礎・基本の技能の習得をするための時間を確保した。また、製作過程の段階に応じて、段階ごとの実物見本や作品を拡大したものなどを示すなどの工夫をすることで、児童が満足度の高い作品を仕上げることができた。教科書のQRコードを家庭学習で復習する際に利用できるように指導したことで、個別の技術力が高まってきている。
- ・クッキングでは、作業手順が分かるように視聴覚教材を示すことで、落ち着いて取り組めるようになってきている。
- ・日常生活の中で技能習得に個人差があることを踏まえ、休み時間などに個々の時間を設けたところ、主体的に取り組む姿勢が見られるようになった。また、たまサポ（地域支援本部）ボランティアの保護者と連携して取り組むことで、個別の対応ができるようになった。

(2) 課題

- ・生活経験や興味によって差があるため、初めての調理実習や裁縫では個々の児童に応じた支援が課題である。
- ・調理では、家庭でのサポートによって技能の習得に差が出てしまうことが課題である。
- ・家庭の仕事に参加しようにも、家庭での電化製品が難しくて小学生が「実践させてもらえない」という事象が多くなってきている。

2 授業改善のポイント（観点別）

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習事項を関連付けて考えたり、それを繰り返し活用したりしながら、知識や技能の確実な定着を図る。 ・基本的な裁縫の技能や金融に関わることは、ICTを活用し、視覚的に理解できるようにする。	・自分の活動を振り返り、家庭と関わる経験の大切さを知り、自分の考え方を分かりやすく伝えることができるようにする。	・ICTを活用し、学習への興味関心を高めるとともに、家庭科で学んだことを主体的に実生活に生かせるよう、自ら課題を見だし、解決を図る活動や実践を振り返る活動が充実したものになるようにする。

令和7年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立多摩川小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・英語を話すことへの抵抗感やリアクションの仕方に恥ずかしさもあったりして、積極的になれない児童が一定数いたが、3学期にやり取りやスモールトークを取り入れたことで、自分から伝えようとする気持ちが少しずつ高まってきた。
- ・昨年度、授業後の振り返りがなかなか書けない児童がいたが、授業のゴールを明確に示すことで、ゴールに対する振り返りを意識して、少しずつ取り組むようになってきた。

(2) 課題

- ・反復練習する時間が十分に取れず、身に付けたい表現（キーセンテンス）が定着していない。
- ・覚えている単語の量が少なく、自分の思いをなかなか伝えられない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第6学年	・前年度より基礎・応用ともに正答率が上回る結果となった。 ・身近で簡単な語句(教科)を聞き、その意味を問う問題では、目標値を8.7ポイント上回った。 ・身近で簡単な表現を聞き、その意味を理解している(動作)を問う問題の正答率が目標値よりも8.5ポイント下回った。	・日常よく使う単語の問題は目標値を6.6ポイント上回った。 ・知識・技能に関しては、平均値であった。 ・例文を参考にしながら、あこがれの人について 簡単な語句や基本的な 表現を用いて書く問題 の正答率が目標値よりも20ポイント低かった。	

(2) 分析（観点別）

① 低学年（外国語活動）

授業での様子
・自ら相手に関わり、楽しんで発音したり、話したり、歌ったりして取り組める児童が多い。 ・多くの児童が挨拶や感謝など、簡単な語句や基本的な表現を使って、話そうとしている。

② 中学年（外国語活動）

聞くこと	話すこと
・ゆっくりはつきりと話したりジェスチャーをつけたりすると、身近で簡単な事柄に関する基本的な意味の表現が分かっている。	・友達と簡単な挨拶を交わす活動、好きなものや欲しい物などについて、簡単な質問をしたり質問に答えたりする活動など、主体的に相手と関わろうとする児童が多い。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
これまでの学習で、よく発音したり書いたりするものは身に付いている。	日常生活に関する対話を聞き、目的や場面、状況などを推測している(物の貸し借り)を問う問題では、身に付いている。	- ゲームの要素の強い活動に意欲的に取り組む。 - 発音したり話したりする活動を繰り返すことで、できるようになったという自信をもっている児童が少しずつ増えている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年（外国語活動）

- 歌やチャンツ、話しながら体を動かす活動を取り入れ、話す楽しさ、コミュニケーションがとれる楽しさを大切にした授業づくりをする。 - 同じ単語や表現を、繰り返し発音したり話したりする経験を積み、外国語で話せた実感を味わうことができるようにする。

(2) 中学年（外国語活動）

聞くこと	話すこと
具体的な場面設定し、ゆっくりはっきり話したりジェスチャーをつけたりして、おおその内容が推測できるようにする。加えて、慣れ親しんだ別の語句や表現に言い換えたり、動作やイラスト、写真を添えたりするなどして、「聞いて分かった」という喜びや達成感を味わえるようにする。	外国語を使って、自ら友達と関わる児童が多いので、さらに自信をもって楽しんで取り組めるように、ゲームや遊びの要素を入れたり、交流する時間を多く取ったりして、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 四線を使った、アルファベットを正しく書く指導を継続し、繰り返し外国語を書く経験を積めるようにする。 - 肯定、否定の平叙文や命令文などについて、日本語と英語の語順の違いに気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れる。 - 語順を意識して伝えられるように、例文を繰り返し発音したり、チャンツで発話したりする。	- 表現の仕方、伝え方を指導し、場面に応じて適切に使い分けられるようにする。 - 教師が既習事項を使った文を話すことで英語を話したいという意欲を育てる。 - 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話したり書いたりできるようにする。	- 既習事項を生かして新しい内容の学習ができるようにする。 - 楽しめる活動内容を検討し、学習に対する意欲が持続できるようにする。 - 友達に伝えたり、自分で練習したりする時間を取り、繰り返し発音したり話したりしてできたと感じられる経験を重ね、自信をもって活動できるようにする。